

えりばす、からわす、みすじす

山陽教区 木村 慎



子どもの会では、4年前から夏休みの

一週間、ラジオ体操が終わつた後にたくさんの小学生たちがお寺に来てくれます。その子ども会でみんなとおしゃべりをしていたときのことです。

「ひんちゃんは結婚しちゃった？」

「いや、じいへん」

「なんでじいへんの？」

「うーん、なんでやろ？」

「わかった、じいへんかい？」

お寺に来てくれる子たちは素直なのか、

口が悪いのか、率直な言ひ方をします。少しだけ傷つきながら、「じいへんたりモテるようになるかな？」と聞くと、面白がったみんなが、からかい半分に、「髪型変えたり？」「わつとおしゃれになつたり？」「わいちょっとやせたり？」

僕も冗談で、「美容整形でもせなあかんかなあ？」と問ひ、返してしまつた。すると、友達も先生もお父さんやお母さんも、みんなに色々な言葉で「そのままじいへんだよ」といふ阿弥陀さまを教えたのです。そんな僕は、「えりばす、からわす、みすじす」をいつのままでいじるといふのを、「そのままじいへんだよ」といふ阿弥陀さまの「えりばす、からわす、みすじす」の心を伝えようとしています。

僕は口説の中でも見た目だけではなく、色々なことで他人と自分とを比べています。「あの人と僕とではどちらがカッコいいかな? どちらが賢いかな? どちらが眞面目かな? ……」 いつもやつて考ふるのは当たり前のことで、何も悪くないことが悩みや苦しみの元になつているのです。

僕が最初に出遭つた仏さまの教えが、「えりばす、からわす、みすじす」という竹中智秀先生が阿弥陀さまの心を言い換えられた言葉でした。この言葉に出遭つて初めて、僕は自分自身をえらび、きらい、みすこして生きてきたことを知りました。人と比べて良い自分と悪い自分とに分けて考え、「悪い自分はダメだから消してしまわなければいけない」、「良い自分でいる間はみんな好きでいてもらえるけれど、悪い自分になつてしまつたらみんなに嫌われてしまふんじゃなか」、そつやつて感じてじたしんどい思いの原因であると教えたのです。そんな僕は、「

子どもたちと聞く法話

なに好きでいてもらえるけれど、悪い自分になつてしまつたらみんなに嫌われてしまふんじゃなか」、そつやつて感じてじたしんどい思いの原因であると教えたのです。そんな僕は、「

阿弥陀さまは「あなたはあなたのままでいいんだよ」と呼びかけてくれています。どんな自分であつても受け容れてくれる世界がある、といふことが僕に大きな安心感を与えてくれました。そして同時に、今まで本当にたいてして意味のないことに振り回されて生きてきたことに気付かされ、「本当に大事なことって何だらけ?」と考ふるきっかけになりました。

みんなも学校では、しつかり勉強して賢い人になりましょ、誰どでも仲良くなれる優しい人になりましょ、と教えられると思います。それがもしやかしたら、賢い人にならなければダメだと、優しい人にならなければダメだという風に聞こえてしまうかもしだせん。そのことじつくなつたり苦しくなつたりしたときには、阿弥陀さまは、「勉強ができるなくとも、友達とケンカをしてしまつても、君をきりりになつたりみすこしたりしないよ」と僕たちにいつも呼びかけてくれてらる、そのことを思ふ出ででいました。そこで、「本当に生き方をしてほし」ところの願いを聞いて下さる。そこから、本当に安心し

て「僕はこのことをやってらへんだ」といふことを始めてじかるはあでわ。実は、友達も先生もお父さんやお母さんも、みんなに色々な言葉で「そのままじいへんだよ」といふ阿弥陀さまの「えりばす、からわす、みすじす」の心を伝えようとしてくれてらへます。その心に遭遇つて、本当に自分がしたこと、しなければならぬこと、できないことを見つけましょ。そして、それを他人と比べず、あせらず、あきらめず、じたこわもじょの。

蓮ちゃん通信 その②

あれから70年の夏、絵本で考える平和①

『さがしています』

作：アーサーピナード 写真：岡倉禎志（童心社）

1945年8月6日8時15分。ヒロシマの時間は止まつたままだ。人々は生きたかった。生き抜きたかった。人々に寄り添い生活を共にしていたモノたちは、ずっとあの人たちを探しています。70年の時をこえて…。

